

2016年3月4日発行

※度会郡の4町（玉城町・度会町・南伊勢町・大紀町）と多気郡大台町の5町が連携し、(特)三重県子どもNPOサポートセンターに委託してファミリーサポート事業を実施しています。

研修会・交流会開催しました

2/21(日) 10:00度会町/14:00大台町

山野先生から紙皿シアターと牛乳パックのコマを教えてくださいました。

手作りおもちゃを作る過程での親子の会話や見守る目、できた時の子どもの笑顔や皆さんへのお披露目の時の表情はとても素敵でした。

サポートに入って頂いた提供会員さんたちも、楽しんでいただけたようです。

また、座学の中で先生が、子どもの思いを受け止める事が大切で、受け入れる（子どもの言いなりになる）のとは違うのよと言う言葉に皆さん納得されたようでした。

大紀町の方にも来て頂きたかったなど、残念に思いました。

大紀町アドバイザー 鬼藤千代子

ファミリーサポートセンターの交流会に参加したのは、初めてでしたが、とても楽しく過ごさせてくださいました。



上の子は（年長）、おもちゃ作りにあれこれと悩みながらも取組み、とても楽しんでいました。家に持ち帰ってからもお父さんに作ったこと、おもちゃの遊び方を嬉しそうに説明しておりました。

下の子（3歳）はおもちゃを作るよりも、はさみに夢中でチョキチョキしていましたが、当日のサポーターさんが、「危ないよ」など言わずに、本人の気が済むまではさみを使わせてくれて、またその様子を「じょうずだね」と褒めてくれて見守ってくれていたの、とても自慢げにチョキチョキを楽しんでいました。

南伊勢町依頼会員 河上真木子

今回初めて、長女10歳と長男4歳と次男2歳と一緒に参加しました。

一番感動したことは、サポーターさんの親切な対応です。

手作りおもちゃの時間は、長男はとても楽しんで作っていました。長女はいろいろと工夫して取

り組んでいました。次男はすぐにあきてしまい騒ぎはじめたので私と別室へ行きました。その間、サポーターさんが2人に付き添ってくださっていました。あとから2人の様子をお話してくれました。研修会の間も子どもたちと遊んでくれたので、集中して聞けました。

帰りの車で長女が、『今日は本当に楽しかった。サポーターさんが弟たちと遊んでくれたから私は好きなことができた。』と話していました。長男も『またあの人とあそびたい。』と言いました。

山野先生のお話は、勉強になることばかりで貴重な時間を過ごせました。手作りのおもちゃもすばらしく、真似をしたくなるものばかりでした。

今まで、日々子どもたちを大きな声で怒ることが多かったのですが、これではダメだと思いました。自分の気持ちを押しつけていることが多かったように思います。

子どもたちの声に耳をかたむけ、子どもたちの気持ちを受け止めることが大事なのですね。そのうえで、私の気持ちを伝えていこうと思います。

また、子育てにつまづいてしまったときは、研修会のことを思い出したいです。

大台町 加藤美穂

「わあ～、頑張っていっぱい切れたね～！ごちそう？おいしそうやなあ、このお皿に入れてみる？」・・・牛乳パックをハサミで夢中になって切り続けていた男の子への、サポーターさんの声掛けです。その瞬間、男の子の瞳がキラリと輝いて、パッと笑顔の花が咲きました。・・・「うん!!」・・・お母様も、それまで一生懸命お子さんを見守り、励ましておられましたが、サポーターさんのその「ナイス・フォロー」に後押しされ、お姉ちゃんの描画のサポートに回ることができ、安心されたご様子でした。

今回、私は提供会員として研修会・交流会に参加し、集団託児も担当しました。そこで他町のサポーターさんと一緒に11人のお子さんをお預かりしました。先程の声掛けにしても、お子さん達の姿を温かく見守り、遊びを盛り上げていく援助の仕方にしても、他のサポーターさんの、ゆったりとした中にも細やかな配慮を忘れない姿勢に、たくさんのお話を学ばせていただきました。そして、「頑張って!」と素敵なエールをいただいた様に感じました。

初対面の「おばちゃん」に、とびっきりの笑顔をくれたお子さんたちとの出会い、そして私達提供会員を信頼してお子様を任せくださる依頼会員の皆様や、多くの提供会員の皆様との出会いに感謝・感謝の一日でした。本当にありがとうございました。

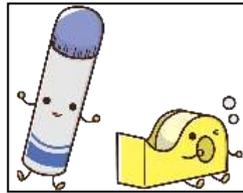
度会町 FSC 担当 安井三智子

私は度会町子育て支援センターで開かれたファミサポ交流会に参加させていただきました。担当の先生から声をかけていただき、このような交流

会は初めてでしたが、いただいた申し込み用紙に“おもちゃを作ろう！・遊びの大切さ”と書いてあり、その上、子どもと一緒に参加出来るという事でしたので迷わず申し込みをさせていただきました。

そして子ども達と当日まで「どんなおもちゃ作るのかなあ。」とワクワクしていました。

当日は五年生の長男と年中の次男とで参加させていただきました。次男は割と人見知りが高く同じテーブルになった玉城町の提供会員さんともすぐに仲良くなって楽しく時間が過ぎて行きました。しかし第一部で作った“絵変わり紙皿”を「皆の前で発表出来るお友達～！」となった時、耳元で「僕も発表しやないかんの？恥ずかしいで母ちゃんしてよ。」と急に消極的になり、いつもには無い一面を見ちゃいました。



次に作った牛乳パックコマも簡単でしたので今回参加出来なかった長女とも家で作ってみようと思います。

第二部では山野先生から子どもの遊びについての素敵なお話を聞かせていただきました。五年生の長男と三年生の長女は歳が近いせいか一緒に遊び出すとケンカが始まります。そして私は意見も聞かずお兄ちゃんを注意してしまいます。そんな時はまず両方の言葉を聞いてお互いの気持ちを考えてあげなければいけないんだなと思いました。

今回の交流会で手作りおもちゃの大切さや子どもへの対応の仕方を教えていただき、その上、私は子どもからいろんな事を教えてもらってるんだなと改めて知る事が出来ました。

度会町依頼会員 堀本法代

久しぶりに小さな子どもたちと触れ合う機会をいただきました。

交流会は山野先生のご指導によって、身近にある物を使って簡単でしかも短時間で作ることが出来るおもちゃに挑戦しました。

さて、作り始めてみると、大人はどんな絵を書こうかと迷っている内に、子どもたちは思い思いの発想ですぐに取り掛かり、あっという間におもちゃができました。その早さに驚かされるとともに羨ましくも思いました。そして世界でひとつのおもちゃを皆さんの前で披露してくれました。子どもたちは満足感とちょっと得意気で楽しそうでした。

後半の研修会では親子が別々となり、大人は山野先生の講座、子どもたちは託児、とともに遊ぶことになりました。乳幼児から小学生まで年齢は様々でしたが、ひとりも泣くことなく、一時間程過ごすことができました。本当は、親と離れることで泣く子もいるかなと思っていましたが、その不安はどこへやら、託児する私たちも一緒になって遊ぶことができました。

また山野先生のお話から、手づくりおもちゃの

すばらしさ、そして遊びを通して育つもの等々、沢山の感心させられたお話しをお聞きしました。その中から次の三つのことを心に留めました。

一、「ありがとう」のこぼれ掛けによって子どもは存在感のあることに気づく。

二、「ほめる」ことで自信が付き、伸びる子となる。

三、「知識は身につけにくい、体験は身につく」今後、ボランティア活動や子育てならぬ孫育てに活かしていきたいと思います。

大台町提供会員 鈴木恵子

子どもたちの中には、パッパッパッと物事を進めていく子、じっくり考えて順追って仕上げていく子…。今ならどちらも個性だとわかります。自身の子育てを振り返った時、周りの目を気にしたり、自分の思いを押し付けたりと、かなり窮屈な子ども時代を過ごさせてしまった気がします。そんな中、家族をはじめ、保育所や学校の先生、友達、地域の方たちの知恵やおせっかい(?)に助けられて今2人の子たちは成人してきています。本当にありがたいです。

今回出会った子どもたちが、いろんな出会いや体験を血、肉にかえて、一人ひとり自分の道を見つけたいことを願います。

玉城町提供会員 K.K.

ファミリー・サポート・センターより手紙が来たので何気なく娘(6才)の横で開けて読もうと思ったら・・・「お母さん、これ行きたい！」と娘が言いました。

私は何の事やら?・・・読み進めると交流会・研修会のお誘いでした。

第一部は、子どもと一緒におもちゃ作り、第二部は研修会・・・その第一部の“おもちゃを作ろう!”にひかれたそうです。

会場も近いところだったので友達の依頼会員さんを誘い、申し込みました。

おもちゃ作りは娘と頑張って作りましたが、時間が足りなかったのか、家に帰ってからまた作っていました。

研修会は、まず読んでくれた絵本に感動しました・・・

内容もいろいろためになるお話ばかりで、自分の普段の子育てを反省させられました。それと、養成講座のお話も改めて思い出しました。

娘も楽しく、私も勉強になり、充実した時間を過ごせて、ありがとうございます。又、参加させていただきたいと思っております。

南伊勢町提供会員 A.K.

交流会では、紙皿や牛乳パックを用いた工作を教えてくださいました。

紙皿に切り込みを入れたものを2枚重ねにして動かすと、絵が変身する様子を楽しんで見せてもらいました。子どもたちは、じっくり工作に取り組み、楽しんで活動していました。

その後の研修会では、講師の先生の子育てに関する貴重なお話を聞かせて頂きました。家庭は、子どもが言いたいことを言えて、くつろげる場であること。また、子どもが何をもめているのかを普段の様子から察する親子関係の構築の大切さを改めて考える良い機会を与えて頂きました。

子どもの心に寄り添い、その成長を温かく見届けていきたいと感じました。

玉城町依頼会員 C.D.



今回はチャイルドラインチャリティー活動として行われた「こどもこそミライ」上映会ですが、この上映会には、5町連携ファミリーサポート事業の会員の方にも参加していただきました。



映画「こどもこそミライ」は3つの園での子どもたちの日常を追ったドキュメンタリーです。横浜の「りんごの木」では園でおこったさまざまな出来事をテーマに、子どもたちが自分の言葉でとことん話し合い、気持ちを出し合って考えます。山梨の森の中にある「森のようちえんピッコロ」では子どもたちは一日中自然の中で全力を出し切って遊んでいます。大阪の「保育所 聖愛園」では障害のある子もいない子もみんな一緒に育ち合っています。

私はこの映画をみて「りんごの木」の話し合いの場面で、初め「子どもって力があるな。すごいな。」と試みていました。(それは大人目線)しかし、だんだんいい子をしてきた自分の中の子どもが「言ってもいいんだな。私も言いたい!」という気持ちになり、涙があふれてきました。そこには子どもたちが自分のそのままの気持ちを出して、受けとめられる場があったからです。自分の意見が言えて、どんな意見も大切にされる。けんかになってもそれを見守る仲間がいる。一人ひとりが尊重されていると感じました。

子どもが本当に受けとめられると、自分の持っている力を発揮でき、自分で考え自分で行動することができるということを実感しました。そのため私たちは、待ちながら見守っていききたいと思いました。

大台町アドバイザー 塩谷明美

この映画は、登場する3つの園の『子どもを主役とした、子どもに寄り添う』独自の保育を実践し、日常の保育の中で子ども達の姿を素敵に捉えていました。

特に山梨の保育園の、森の中で遊ぶ子ども達の姿は、自分たちの地域の自然の中で遊ぶことが少ない事を実感させられました。一昔前は、自分たちの子どもころ遊び場だった神社の裏で遊ばせたりもしていたけれど、今は何かあったら…とい

う思いが先に立つ事を否定できません。しかし、これからの保育に携わる保育士たちには、子どもの本来持っている「学ぶ力」「考える力」「生きる力」を育む保育を実践していくためにも、自分の地域の自然を知り、地域を活かす保育を心がけていってほしいと思うし、伝えていきたいと思います。

大紀町提供会員 谷口満穂

子どもの持つ力は本当に素晴らしいと感じた反面、自分自身が保育をしていく中で、その力を引き出せる事が出来ていたのかと、考えさせられました。

保育士主体の保育になっていないか、手や口を出し過ぎていないか、気を付けながら保育をしていきたいと思いました。

また、子どものケンカは当事者だけで話をすることが多いと思いますが、クラスみんなで話し合う事で、人の気持ちが分かったり、どう伝えれば相手に伝わるか考え、気付いていけるのだなあ感じました。

度会町 M.F.

「こどもこそミライ」の上映会に5歳の息子と参加させて頂きました。

子どもには大人が思っている以上に大きな力があり、周りの環境を整えることでそれが十分発揮できる。子どもたちがイキイキとたくましく育っていける世の中でありたいと感じました。

息子は最後まで座っている事ができましたが、絵本を用意して頂いてあったことで、ぐずっても大丈夫と安心して見る事ができました。

細かな心遣いが嬉しかったです。ありがとうございました。

南伊勢町 FSC 担当 濱地京子

映画を通して、子どもたちのいきいきとした表情が印象的でした。特に「りんごの木」の子どもたちのミーティングの様子は、自分たちの感情をぶつけながらも、子どもたち自身が解決していく姿に、大人としてそれを見守ることの大変さと大切さを感じました。全編を通じて子どもたちのたくましさに感動しました。

玉城町子育て総合支援室 中西典子



1月末までの各町の状況

| | 依頼会員 | 提供会員 | 両方会員 | 計 | 活動累計 |
|------|------|------|------|------|------|
| 大台町 | 53 | 47 | 8 | 108 | 1 |
| 玉城町 | 110 | 52 | 7 | 169 | 109 |
| 南伊勢町 | 11 | 12 | 1 | 24 | 2 |
| 大紀町 | 13 | 27 | 1 | 41 | 0 |
| 度会町 | 23 | 13 | 2 | 38 | 4 |
| 計 | 210人 | 151人 | 19人 | 380人 | 116件 |

❖「ニュージーランド子育て支援視察」③

◆2014年9月20日～25日

◆主催:三重県子どもNPOサポートセンター

視察2日目の午後は“Canterbury Plunket Centre”を訪問しました。

資金的援助をしてくれて貢献があった総督婦人の名前‘Victoria Plunket’からつけられていたのことで、地区ごとにあるそうです。

お話をしてくれたのは、マナイさんで、30年間プランケットクリニックのマネージャーをされています。以前はプランケットナースでした。プランケットナースになるには、看護師の勉強+1年の勉強が必要で、その後国の認可を経てなるそうです。

プランケットセンターの役割は、子どもが健康に育つためのサポートをすることで、ナースの給料と経費が国の補助金、建物の維持等は寄付とバザーで賄われています、妊娠すると、ミッドワイフという妊婦担当の助産師がつかます。ミッドワイフは、妊婦への最初の聞き取りから親の健康面での必要な支援や、訪問の頻度などを決め、心配なことがあれば専門家へ紹介するそうです。

出産するまでの訪問の回数は7回から必要に応じて決まり、生後6週間でプランケットセンターへ引き継ぎます。

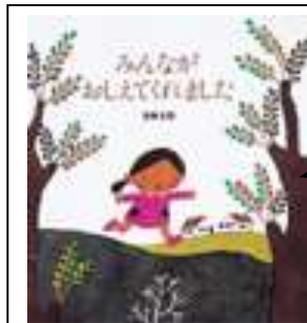


<プランケットセンターの支援内容>

- *コミュニティで親を集めて教育する。
健康と安全面のレクチャー。
- *小学校に入るまでは歯の検診などもするが、地域の開業医でも検診は受けられる。
- *親への「母乳について、子どもの発達、栄養、予防接種、家庭状況、喫煙について」などの聞き取り。
- *親の息抜きのためのサービス（コーヒーグループ・ファミリーセンター）
コーヒーグループ：プランケットセンターが親たちを集め、グループを作る支援をする。6週間くらいで、自立していくそうです。
ファミリーセンター：ヘルスワーカー（パートタイム）がいて相談に乗る。
- *鬱の親のグループや赤ちゃんの困りごとについてなど、ニーズに合わせて既存の小グループを紹介したり、新しく作ることもあるとのこと、リスク家庭の情報は助産師から入ってきます。プランケットセンターで手におえなければ、専門家を紹介。

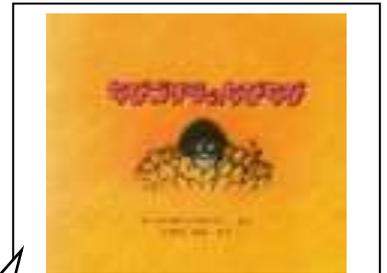
- *プランケットクリニック：ナースが常駐している。
 - *プランケットライン：24時間の電話相談で、オークランドとウェリントンにセンターがあり、プランケットナースが受けている。地域のセンターに回すこともある。
 - *プランケットナースと地域・親を結ぶネットサービス
 - *高校へ出向いての教育
 - *カーシートレンタル
- 三重みなみ子どもネットワーク 秋山則子

親子で楽しい絵本コーナー



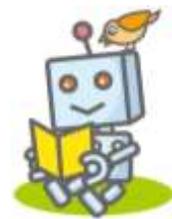
「みんながおしえてくれました」
五味太郎:作/絵本館

子どもはとっても知りたがり屋です。見た事をやってみます。大人は、子どもに見られていますよ！



「ちびゴリラのちびちび」
ルース・ボーンスタイン:作
いわたみみ:訳/ほるぷ出版

ちびゴリラのちびちびは、みんなに愛され育ちます。周りにいる動物たちが見守り、お誕生日を迎えました。私たちも、子どもに「大好きだよ」と伝え続けたいですね。



みえ子育て支援・緊急サポートネットワーク

❖南勢志摩地域センター

(玉城町・度会町・大紀町・南伊勢町ファミリー・サポート・センター)
TEL&FAX 0596-23-3938
〒516-0037 伊勢市岩淵2丁目3番13号
NPO法人三重みなみ子どもネットワーク内

❖多気郡地域センター

(大台町ファミリー・サポート・センター)
TEL&FAX 0598-22-1950
〒515-0084 松阪市日野町788カヨビル1階
特定非営利活動法人 松阪子どもNPOセンター内